

令和 6 年度 国際科 学校評価

英語によるコミュニケーション活動を通して、相手の思いを受け止めたり、自国の文化や伝統の良さに気づいたり伝えたりできる児童を育成する。(国際科)

評価項目【成果】	評価基準	評価	成果と課題
児童アンケートで、英語を使ってコミュニケーションをとることや外国について学ぶことが「楽しい」と答える児童	A：11人以上 B： 9人以上 C：B未満	A	11人の児童が肯定的評価だった。1学期に引き続き、ALTと密に打ち合わせを行い、児童の興味関心を高めながら活動を進めたことで、楽しみながら学習することができた。
評価項目【教育活動】	評価基準	評価	成果と課題
英語を使って友達等とコミュニケーションを図る活動を行う。	A：8割の授業で実施。 B：5～8割の授業で実施。 C：B未満。	A	低学年、中学年はA評価、高学年はB評価であった。高学年は教科書内容を進める上で、コミュニケーションを図る活動に重点を置くことができない場合があった。
外国の講師等から、外国の文化に触れる活動を計画的に取り入れる。	A：年間5時間以上 B：年間1～4時間 C：実施せず	A	10月と1月の国際交流を2時間ずつ、外国の文化（ハロウィン）に触れる機会を1時間、計5時間を確保した。
評価項目【運営活動】	評価基準	評価	成果と課題
授業でねらいを達成するためにALTや外部講師と事前打ち合わせを行う。	A：8割の授業で実施。 B：5～8割の授業で実施。 C：B未満。	A	毎回事前打ち合わせを行った上で授業を実施することができた。ALTと一緒に授業の組み立てや内容について考えることができ、ねらいの達成に効果的であった。

学校関係者評価

学校運営協議会にて、各種アンケートの結果から見てきた成果と課題について国際科のあり方について検討した。「国際科が楽しいという児童が多くてよい。」「国際大学の学生との交流を継続的に行っていることは、他国の人や文化に触れる重要な機会になりとても有意義である。」などの肯定的な意見が聞かれた。